

令和7年度 課題別地域保健医療推進プラン

小笠原地域における 災害時保健医療活動体制の整備強化事業

島しょ保健所小笠原出張所

副所長 小池 梨花

事業背景

- 島しょ地域は様々な自然災害のリスクを持ち、備えが喫緊の課題である
- 島しょ地域は、発災後の超急性期において外からの援助を得ずに島内の人材と資源で災害対応を行う必要がある
- 島しょ保健所出張所は、「災害時における島しょ保健所活動マニュアル」に基づき災害対応活動を行うが、事前準備が重要である
- 保健所は災害時活動の基盤を作り、村や関係機関等と災害時活動の連携を強化する必要がある

事業内容

- 保健所活動マニュアルを元に「アクション・カード」を作成する
- 関係者とHUG(避難所運営ゲーム)を実施する
- 災害時保健活動の専門家に来島いただき、父母両島の災害関係施設やリスク指定地区の視察、関係者向けの講演会を開催する
- 村の関係機関と講師を交えた意見交換を行い、村の災害時保健活動の整備強化をはかる

事業スケジュール

- 5月：所内体制整備、マニュアル確認
- 6月：HUG研修
- 7月：父島の防災関係施設・ハザードマップ地区の見学
- 8月：アクションカードの作成、講師打ち合わせ
- 9月：村の防災訓練に参加、母島の防災関係施設等の見学
- 10月：専門家来島、講演会・意見交換会(母島のみ)
- 11月：地域保健医療協議会でのプレゼン
- 12月～2月：所内避難訓練、事業まとめ

HUG研修



HUG研修後意見

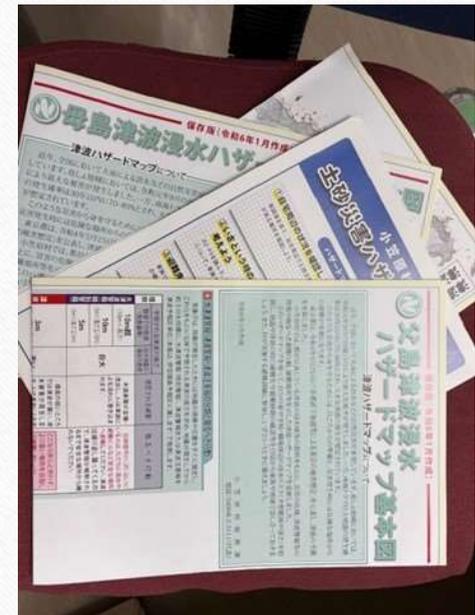
- 次々に増える新しい問題にスピード感をもって対応する必要性を実感
- 人によって意見が違うのでチームで考えることの大切さを実感した
- 発災前に準備や取り決めをしておく大切さがわかった
- マンパワーが足りない、自分がパニックになった
- 想定外のことを想定しないと対応できない
- 病気や障害をもった配慮が必要な人の対応が難しいが、グループ分けの学びを実際の避難所運営に活かしたい

避難所・ハザード地区視察

- 小笠原村では、父島と母島それぞれに「津波浸水ハザードマップ」「土砂災害ハザードマップ」が総務課に用意されている
- 津波避難目標地点が村内道路に設置され、避難の目安になっている



避難路案内・ハザードマップ



父島の防災倉庫視察



父島の防災倉庫視察



母島の防災倉庫視察



母島の避難所予定施設視察



母島の避難施設視察



視察を終えて

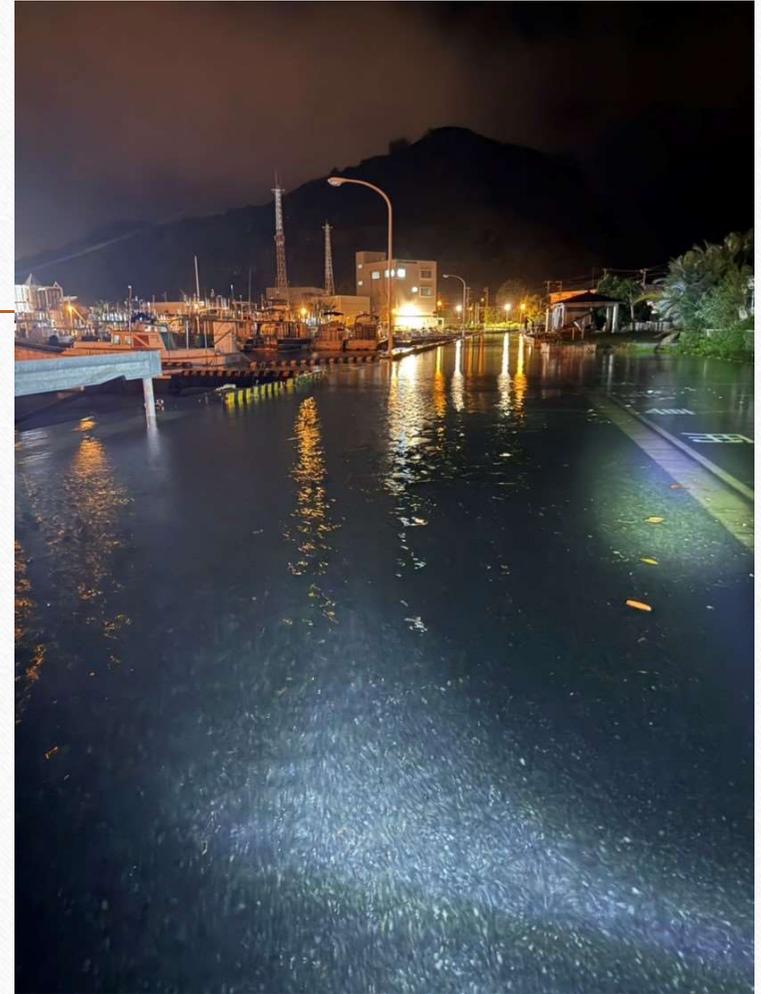
- ハザードマップと照らし合わせて実際の現場の踏査ができた
- 防災倉庫(備蓄庫)の場所が確認できた
- 島内の村指定避難所全てを巡回し、収容人数、備蓄品、部屋の状況などの現場を確認できた
- 支庁、村の災害救援物資の情報(備蓄物資の品物、数、消費期限等のデータ共々)を提供いただき、共有できた
- 避難所までの避難ルートを辿って、避難行動のイメージができた

津波・台風の小笠原襲来

- 7月28～29日 台風9号の襲来
- 7月30日 カムチャッカ半島の地震の発生
津波警報が発令
- 10月8日 台風22号の襲来(講師来島中)
暴風雨波浪特別警報が発令



台風9号+地震による津波



津波警報発令中・父島の避難所



台風22号の暴風圏に 小笠原諸島が突入



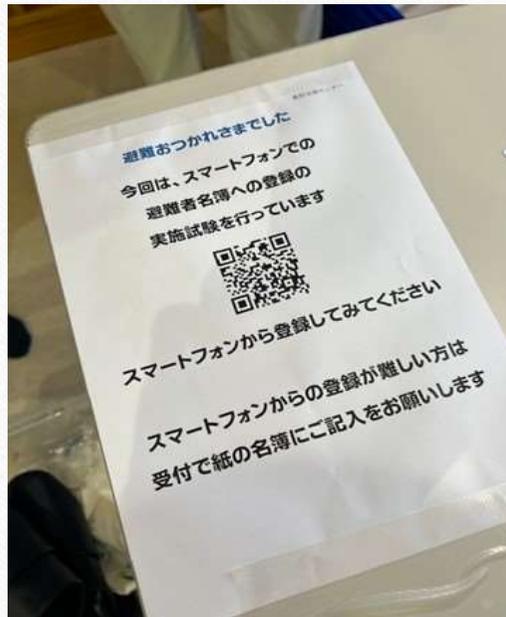
小笠原村 防災訓練

- 9月1日の防災の日に、午前・午後に分けて以下の訓練を実施
- 南海トラフにて大規模な地震が発生し、小笠原諸島に大津波警報が発表された想定に対する住民避難訓練の実施
- 小笠原村、海上自衛隊父島分遣隊、支庁、警察署、海上保安署、NTT東日本、消防団等が参加
- 合同防災訓練(道路啓開訓練)の実施
- 小笠原村、海上自衛隊父島分遣隊、支庁、警察署等が参加

避難所(訓練)巡回視察



避難者名簿 電気 WiFi



StarLink 衛星電話



専門家による講演会・意見交換会



参加者の意見

- カムチャッカの体験を元に、地元で関係者が集まって災害対策についての意見交換を行うことができたのは成果だった
- 役場の職員だけでは足りない、いざとなれば潜在医療関係者の協力を得る
- 平時の備えが大切、事前の想定と準備が大事
- 周りとのつながりを大事にして、互いに助け合える環境を作ることが島ならではの対策だと思う
- 横のつながりも大事だが、各機関が与えられた役割を上から下まで理解してやっていくことが大事
- 立場の違う人同士、同じ災害について話し合えた機会は貴重だった

専門講師からの助言

- 小笠原では、住民に加えて観光客の命と安全を守ることが要になる
- 外部からの支援者は宿泊・飲食等、現地に迷惑をかけないのが大前提
- 避難訓練に参加することは、危機意識の醸成に役立つ
- 正常バイアス(自分は大丈夫という根拠のない楽観視)は何らかの工夫をして変えていく必要がある
- 炊き出しも減塩食など様々な災害食が今はある
- 災害対策の司令塔になる場所が大切、そこは避難所兼務にしない

今後の展開

- 「アクション・カード」は、「地震編」「風水害編」「日頃の準備編」の3バージョンの小笠原編が作成された
- HUG研修については、対象者を拡大して実施予定
- 台風で実現しなかった父島での講演会・意見交換会を講師を交えて実施予定
- 今年度築いた顔の見える関係者との継続的な話し合いを予定
- 年度末までには、小笠原地域での課題別推進プランをまとめる